

滋賀県文化情報

『えんむすび』

●「未来へつなぐ

しが文化活動応援事業」

応援したみなさんの活動を

公開しています！

新型コロナウイルス感染症の影響により、県内での展覧会や公演が中止・延期となるなど、文化芸術活動の機会が失われています。このため、県では、県民や芸術家の方々が文化芸術活動を再開するための費用を支援する「未来へつなぐしが文化活動応援事業」を実施し、対象となる文化芸術



① 能楽ホールでのフルートとピアノのコンサート



② 書と舞と音のコラボレーション



③ 高宮お祭り体験教室



④ 子どもの夢づくり支援プロジェクト

の取組を広く募集してきました。

その結果、令和2年度は、オンライン上での音楽コンサートや「3密」を避けたお祭り体験など、238件の取組を申請いただきました。どの取組も様々な工夫によって感染症対策が施されており、コロナ禍でも楽しめるバラエティ豊かなものとなっています。

現在、これらの取組の成果物（取組内容を紹介する記録集や動画など）を県のホームページで公開しています。（写真①～④）ぜひ、読者の皆様もご覧いただき、滋賀で活躍する様々な活動者の文化芸術作品をお楽しみください。

●後援名義の使用申請・報告は、

インターネットのご利用を！

文化芸術関連行事を開催される際、一定の条件を満たす場合、後援を行っています。令和2年（2020年）1月より滋賀県公式受付サイト『しがネット受付サービス』での申請・報告が可能になりました。データで作成した書類を印刷、郵送する手間が省け、書類のデータが揃えばそのままネットで申請・報告ができます。後援名義の申請・報告をされる際は、是非『しがネット受付サービス』をご利用ください！*詳しくは『しがネット 後援名義』で検索してください。滋賀県ホームページ

(<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkageizyutsu/12286.html>)

【未来へつなぐ しが文化活動応援事業の
ホームページとQRコード】

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkageizyutsu/314207.html>



Made in Shiga

「身近に感じる「美」の世界

「猫十動物」をテーマにした

3年に一度の祝祭

NCC 湖南「コニャンナレ」実行委員会

アートプロデューサー 中森 健

●宿場町の魅力十動物との共生

「コニャンナレ」は東海道五十一番目の宿場町として栄えた湖南市石部でのまちづくり活動から生まれたアートプロジェクトです。「あるもの」から「ないもの(新しい価値)」を生み出すアートの力により、様々な交流を活性化することで東海道の宿場町の魅力や湖南市にある滋賀県動物保護管理センターが目指す「人と動物とが共生する豊かな社会づくり」を多くの県民の方々と共に実現していきたいとの思いから2020年1月より活動を開始しました。

「猫十動物」をテーマにした三年に一度の祝祭(動物に感謝し、生きることを喜び、ローカルなコミュニティを一緒に育てるアートでクリエイティブ



制作された猫ねぶた



お店に飾られた猫ねぶた



アニメーション・ワークショップの様子



環境整備中の旧青少年自然道場

県内で実施されている「美の滋賀」づくりに関する取り組みを紹介します。

ブな祭り)を「猫好きな人々にとって記念となる2022年(ニャンニャン年)に開催し、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマの2025年大阪・関西万博へと繋げていくことを目標に実行委員会形式にて運営していきます。

●「猫ねぶた」でまちづくり

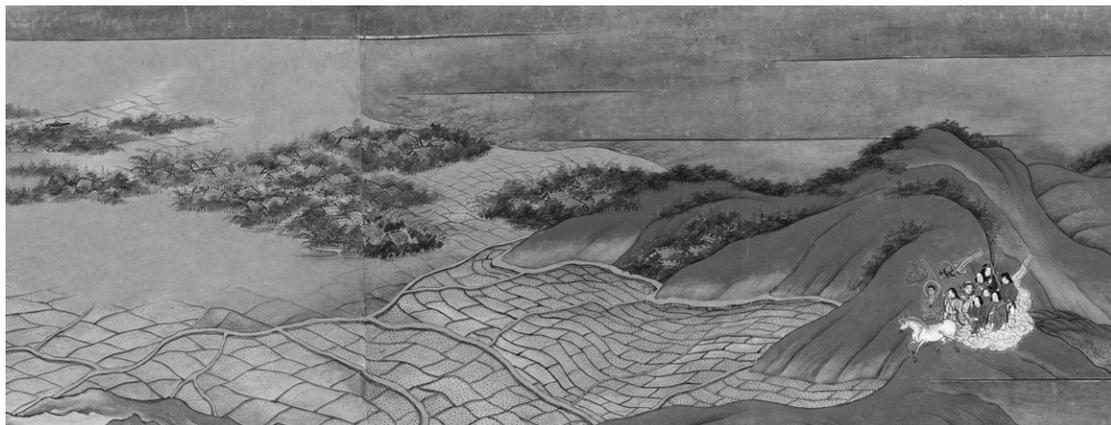
「美の滋賀」プロジェクト推進事業に採択された本年度は2022年に向けた芸術環境整備事業と位置付け、ワークショップを中心に事業を展開しました。「猫ねぶたワークショップ」は青森県弘前市出身の講師を迎え、石部まちづくりセンター工芸室にて5回開催。親子で参加できるアート作品づくりとして地域の方々に好評を得ましたが、コロナの影響

●多文化交流目指す

また「コニャンナレ」では様々な交流の中でも多文化交流にも力を入れています。モデル事業として東近江市にある「ラチャーノ学院」と連携し、ブラジル人メディアアーティストのイゴーさんをオンライン講師に迎え、動物をテーマにしたアニメーション制作のワークショップを実施しました。こちらのワークショップも継続的に実施できるように湖南市旧青少年自然道場 TEZUKURI NO KUNI の環境整備を進めています。私達の活動はまだ始まったばかりなので多くの仲間を募集しておりFacebookにて情報発信を行っています。興味のある方は是非ご連絡ください。

また「コニャンナレ」では様々な交流の中でも多文化交流にも力を入れています。モデル事業として東近江市にある「ラチャーノ学院」と連携し、ブラジル人メディアアーティストのイゴーさんをオンライン講師に迎え、動物をテーマにしたアニメーション制作のワークショップを実施しました。こちらのワークショップも継続的に実施できるように湖南市旧青少年自然道場 TEZUKURI NO KUNI の環境整備を進めています。私達の活動はまだ始まったばかりなので多くの仲間を募集しておりFacebookにて情報発信を行っています。興味のある方は是非ご連絡ください。

<https://www.facebook.com/konyannale>



重要文化財「桑実寺縁起絵巻」(二巻)、詞：後奈良天皇・青蓮院尊鎮・三条西実隆、絵：土佐光茂、近江八幡市・桑実寺所蔵(京都国立博物館寄託)
下巻第一段(部分) (7月27日～8月8日展示予定)

県美への誘い

「ひらけ!温故知新

—重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに—展に寄せて

滋賀県立美術館 学芸員 大原由佳子



似顔絵 吉川紀子

6月27日ようやく再開館を迎える滋賀県立美術館(旧名称・滋賀県立近代美術館)の最初のコレクション展について紹介します。絵巻物、掛軸、屏風といった形状は日本美術においてよく見られますが、これらの作品は人の手で開かなければ鑑賞することができません。作品を開くという行為と美術館が開くという期待の二重の意味を込めて展覧会タイトルを付けました。

「桑実寺縁起絵巻」(重要文化財、近江八幡市・桑実寺所蔵)は絵巻の宝庫である滋賀県が誇る名品のひとつです。今回の展覧会では「桑実寺縁起絵巻」とそれに関連する資料を拝借し、この作品を導き手として「パノラマの視点」「ストーリーを描く」「祈りの情景」の3つの観点から当館のコレクションを紹介します。

「桑実寺縁起絵巻」は、近江国織山

白眉! 蒲生野の田園パノラマ

にある桑実寺の創建と本尊の薬師如来の由緒を記した縁起絵巻で、第12代将軍足利義晴の注文によって詞書の草案を三条西実隆が、絵を土佐光茂が制作しており、三条西実隆の日記や絵巻の奥書などから注文主、詞書筆者、絵師、注文の経緯などが判明しているという点で大変貴重です。絵を担当した土佐光茂は宮廷絵所預の絵師で、京都と近江を行き来して制作したと考えられており、特に下巻第一段に描かれる蒲生野の田園風景のパノラマ描写は室町絵巻の中でも白眉の出来です。本展ではご所蔵者様はじめ関係者の皆様にご配慮いただき、展示場面を4期に分け、会期中いつでも「桑実寺縁起絵巻」を観覧いただくことができます。今回の展覧会が地域の文化財や当館のコレクションの新たな一面を知っていただく一助となれば幸いです。

オペラ日和

●名作オペラ《カルメン》を愉しむ

びわ湖ホール 総括プロデューサー 舘脇 昭

新型コロナウイルスが舞台芸術公演に影響を与え始めてから1年以上が経ち、いまだに厳しい状態が続いていますが、先頃、関西元気文化圏賞の受賞式が行なわれました。昨年3月にワーグナー《神々の黄昏》(ニーベルングの指環全4部作の最終作)を無観客で上演し、無料ライブ配信を行ったことが、コロナ禍の文化イベントのあり方に一石を投じ、文化を通じて関西から日本を明るく元気にすることに貢献したということで、特別賞をいただきました。この賞は2017年に「びわ湖ホール四大テノール」もいただいております、びわ湖ホールとしては2度目の受賞です。大変名誉なことであり、今回の受賞を励みに新型コロナウイルスに負けない公演を行って参ります。

本号では、6月のイタリアのシチリア島から来日を予定していたパレルモ・マッシモ劇場《仮面舞踏会》公演のご紹介する筈でしたが、コロナの影響で今年3月の現地公演の目途が立たないことから日本公演も中止となりました。海外オペラは、10月の「ハンガリー国立歌劇場」(びわ湖ホール初登場)の《魔笛》公演に期待したいところです。

さて、7月から8月にかけては、新国立劇場と提携してビゼー作曲《カルメン》を上演します。指揮は沼尻竜典、演出には一昨年に《トゥーランド



2019年7月《トゥーランドット》公演の様

ット》公演で圧倒的な印象を残したアレックス・オリエを迎え、山下牧子、谷口睦美、村上敏明、砂川涼子といった日本を代表するソリストを迎えます。新国立劇場で12公演とびわ湖ホールで2公演行いますが、びわ湖ホール声楽アンサンブルは14公演全てに合唱で参加します。また、新国立劇場の6公演(鑑賞教室)とびわ湖ホール公演には声楽アンサンブルの卒業生6名がドン・ホセやスニガといったソリストで出演しますので、どうぞお楽しみに。

沼尻竜典オペラセレクション

ビゼー作曲 オペラ 《カルメン》

全3幕 (フランス語上演・日本語字幕付)

日時 2021年7月31日(土)・8月1日(日)
指揮 沼尻竜典
演出 アレックス・オリエ
出演 山下牧子、谷口睦美、村上敏明、清水徹太郎、砂川涼子、石橋栄実 ほか
合唱 びわ湖ホール声楽アンサンブル、新国立劇場合唱団
管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
チケット 18,000円~2,000円
6月6日発売

●コロナに負けない

びわ湖ホールラインナップ

2021年度のびわ湖ホール年間ラインナップは、40事業59公演とこれまでと同等の規模で活発に事業を展開します。オペラ(6演目12公演)、オーケストラ公演、各種リサイタル、演劇、ダンス、バレエ、古典芸能公演など、年間を通じてあらゆるジャンルの舞台芸術をお贈りします。大・中・小ホールとも約24分間で会場の空気が循環する抜群の換気性を誇ります。徹底した感染対策のもと公演を行いますので、どうぞ安心してお越しください。